



2020～21年度
国際ロータリー会長
ホルガー・クナーク

Weekly Report Niigata



2020～21 年度
新潟ロータリークラブ会長

高橋 秀松



ロータリーは機会の扉を開く

国際ロータリー

2020～21 年度テーマ

ロータリーは機会の扉を開く

新潟 RC 11月第 2 例会 (2020.11.17)(書面例会併催) No.3343

(1) ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2) 高橋 秀松会長挨拶

今年、10月20日東京ロータリークラブが創立100周年目を向かえました。

今日は日本のロータリーの創成期に活躍した福島喜三次についてお話を致します。

彼は1881年生まれで佐賀県有田市の出身です。1904年に東京高等商業学校を(今の一橋大学)を卒業して三井物産に入社し、1905年にニューヨーク支店勤務を皮切りにオクラホマ、ヒューストン勤務を経て1915年にダラスで三井物産の現地法人サザンプロダクツ社勤務の時に、ダラスロータリークラブに入会しました。日本人初のロータリアンとなりました。

1918年1月に、福島喜三次は、三井銀行の常務取締役として、政府の財政調査団に加わって渡米していた、米山梅吉と、テキサス州ダラスで会うわけです。初めてロータリー運動に接した米山は、大いに心を動かされたはずです。米山梅吉49歳 福島喜三次36歳でした。

米山梅吉は日本のロータリーの父と呼ばれる人で、すし、米山記念奨学会でもおなじみの人です。

1920年の1月に福島喜三次は社命で東京に戻るわけですが、その際東京にロータリークラブを作るようダラス RC 会長から依頼をされていたそうです。

当時の日本は、第一次大戦に連合国側として参戦し。一時的な景気に沸いたものの、戦後は恐慌に襲われ、不景気のなかで農民運動や初のメーデーが行われるなど揺れ動いていました。ロータリー精神が容易に受け入れられるような状況ではなかった状態でしたが、福島は日本に帰ると、三井銀行の役員であった米山梅吉に相談し、そこに在

日米国人実業家ウォルター＝ジョンストン(元上海 RC の会長)の応援を得て、一流会社の社長や重役などを中心に東京の一流人を集め、具体的な準備作業が進められました。設立準備会を開いたのは9月1日でした。

そして、設立総会は10月20日、銀行クラブにてジョンストンと賛同の有志14名(チャーターメンバー24名中)を集めて開かれました。総会では初代会長に米山を、幹事に福島、理事に伊東米次郎(日本郵船)、樺山愛輔(日本製鋼)、小野英次郎(興業銀行)を選出。国際ロータリーのシカゴ本部に加盟申込書を送り、翌年4月承認されました。

東京 RC は国際ロータリーにより特別代表として全権を委任された、福島喜三次とウォルター＝ジョンストン並びに米山梅吉の尽力により、日本で最初に創立されたロータリークラブとなった訳です。

福島喜三次は1921年翌年の4月に東京 RC の例会にほとんど出ないまま、大阪に転勤となりました。大阪でも、関西財界の星野行則と出会い1922年11月17日に、大阪 RC を作り福島は幹事を務めています。1923年に関東大震災が発生した際には、彼は大阪 RC の幹事として、世界の各クラブからの救援物資を、東京に輸送するなど、大活躍をしています。

大阪ロータリークラブの初代会長の星野行則は、当時の加島銀行の専務取締役です。そしてその加島銀行のオーナーは、NHKの朝のドラマ「あさが来た」の主人公広岡浅子です。広岡浅子は豪商三井家の出身です。

三井物産の福島喜三次、三井銀行の米山梅吉 三井家の広岡浅子とつながりのある星野行則と、初期のロータリーは三井と何かの深い因縁があるのではないかと思った次第です。以上会長挨拶とします。

(3) ゲストの紹介

新潟ローターアクトクラブ

金井 結 会長

川見 歩 直前会長

(4) ロータリーの友紹介 (小田等広報会報雑誌委員長)

(5) 各種ご寄付の発表

青少年育成基金寄付発表(樋熊 紀雄委員長)

塚田 正幸君 樋熊 紀雄君

(6) ニコニコボックス紹介 (田中 孝佳委員)

・塚田 正幸君 今日の卓話は、今年9月1日に創立50周年を迎えた新潟ローターアクトクラブについての話を会長の金井結さんと直前会長の川見歩さんにしてもらいます。皆さんはローターアクトクラブの事をよく知らなかったり、アクト会員と会う機会が少ないですが、ロータリークラブと密接な関係があるローターアクトクラブを理解して下さい。

・敦井 栄一君 弊社、川見歩君が新潟ローターアクトクラブの活動報告をさせていただきましたので。

・石橋 正利君 七五三の御祝い、孫2人がかわいい写真をおくってくれました。ニコニコします。

・阿部 亮君 誕生日のワインありがとうございました。家内と一緒にいただきます。

・新田 幸壽君 誕生祝のワインありがとうございました。

・樋熊 紀雄君 結婚記念日のお花ありがとうございました。

(7) 「新潟ローターアクトクラブの活動報告」

新潟ローターアクトクラブ

・金井結会長

・川見歩直前会長



11月24日の例会予定

財団月間に因み

得永 哲史地区財団資金管理委員長のお話

「人生訓」

ナショナル・ロータリアン、1912年7月号より

R情報委員長 小山楯夫

ポール・ハリス語録より

私たちの生きる目的は何でしょうか? 学ぶことです。何を学ぶために生きているのでしょうか? 学ばなければならない唯一のことは、どうすれば自己にとらわれとらわれないようになるかということです。私たちはそれを学ばなければなりません。学ばないわけにはいきません。ひとりで学ぶことができなければ、強制されるでしょう。遅かれ早かれ、私たちは自己と決別せざるをえませぬ。最後の日を迎えるまで、自己にとらわれているかもしれませぬ。あるいは自然に、徐々に、そうです、喜びをもって、自己と決別できるかもしれませぬ。18歳のときあなたは100パーセント、エゴそのものです。そうではありませんでしたか? 単に自己中心的であるばかりでなく、徹頭徹尾自分のことだけ考えていました。

トーマス・カーライルによると、18歳で、人は嫌味の極致に達する、ということです。それから、仕事に就きます。そして、あなたの自我が屈服します。次いで、結婚します。結婚に伴い、あなたの自我はまた屈服します。そして幸い子供に恵まれましたら、そのときまでには、あの100パーセントのエゴで残っているものはほとんどないでしょう。自我との決別はこのように徐々に、自然に、喜びを伴いながら来ますので、あなたは自分の内部で何が進行しているかほとんど気付かないでしょう。それぞれの経験は、待ち望まれ、言い表しがたい喜びをもって期待されたものです。これは犠牲でしょうか? そうです、犠牲と呼ばれてきたかもしれませぬ。しかし、あなたは、犠牲を払うという榮譽のために懸命に闘ってきたことでしょう。これが極自然な学び方です。あなたの母親も同じように学んできました。母親の人生は、あなたのよく知っている「Service, not self」という主義を最もよく表わしています。最後の日を迎えたとき、屈服しなければならないものは、彼女にほとんど残っていません。彼女には1パーセントのエゴしかありません。その1パーセントは、揺らぎながら消え去ります。しかし99パーセントは、これまで生きてきましたし、現在も生きています。そして、これからも生き続けていくでしょう。私たちの生きる目的は何でしょうか? 学ぶことです。何を学ぶのですか? 人生を学ぶのです。人生から何を学ぶのですか? 人生から学ぶのは唯一のことです。人生を送る中で、いかにエゴと決別するかを学びます。